別紙１４

令和２年度における認知症地域支援推進員の特色ある取組について

区	平均点	特色ある取組
中	3.75	・ 若年性認知症の人が安心して過ごし、やりがいを見つけられるつどいの場や、その家族の交流の場に対する運営支援に継続して取り組んでいる。 ・ 区の特性から、企業を対象として、認知症への理解を深める取組を積極的に行っている。令和２年度は、交通事業者を対象とした認知症サポーター養成講座の開催に特に力を入れた。
東	4.00	・ 「本人がやりたいことを応援」するという共通認識の下、住民を含めて支援者のネットワークを作り、本人が地域で自分らしく過ごせるよう支援を行っている。 ・ 計画的にオンラインで「認知症けあカフェ」やシンポジウムを開催し、医療・介護・障害福祉関係者等の関係機関との連携を深めた。
南	4.00	・ 県の若年性認知症サポートルームや認知症サポート医等と連携し、若年性認知症の人の居場所づくりに取り組んでいる。 ・ 日頃の活動を通して、認知症の地域支援体制づくりにおける区及び圏域ごとの課題を把握し、地域包括支援センターと解決に向けて協議を重ねている。
西	4.00	・ 若年性認知症の人の集いの場の運営支援を通して、本人の役割の創出や仲間づくり、家族の不安軽減等に取り組んでいる。 ・ 対面とオンラインのハイブリット形式で認知症カフェ店長会を開催し、コロナ禍での活動の継続や内容の充実に向けての工夫点などの共有を図った。
安佐南	4.00	・ 市内で最も若年性認知症の人が多い中で、本人の気持ちに寄り添った支援だけでなく、その家族が家族らしさを保てるような支援、支援者が疲弊しないためのネットワークを構築しながら、客観的な視点を持って支援している。 ・ 認知症の人への声掛け研修等を含め、数年かけて段階的に地域の認知症への理解を深めるとともに、対応力を向上させるためのプログラムを作成し、地域包括支援センターと共に取り組んでいる。
安佐北	3.40	・ 区版認知症あんしんガイドブックに掲載されている全ての医療機関や事業所を訪問し、推進員業務の周知及び今後の連携についての情報交換等を行った。 ・ 高齢者地域支え合い事業の見守り協力員が、認知症の知識を持った上で活動できるよう、日頃の活動を踏まえて研修会の企画・開催支援を行った。
安芸	3.50	・ 安芸区地域保健対策協議会の認知症対策専門委員会の開催を支援し、認知症医療・介護連携の推進及び支援体制の整備に努めた。 ・ 認知症あんしんガイドブックの活用状況について、介護支援専門員に行ったアンケート結果を踏まえた研修会を開催し、普及に取り組んだ。
佐伯	4.00	・ 長年認知症カフェの設置が難しかった圏域で、地域包括支援センターと連携して継続して認知症の人にやさしいまちづくりに向けた取組を行い、カフェを設置することができた。 ・ 区内のグループホームが立ち上げているネットワークに対して、オンライン研修会等の開催支援を行った。